



## 第56回 全国公立小中学校学校事務研究大会(埼玉大会) 報告

令和6年8月9日(金)に開催された全国公立小中学校学校事務研究大会(埼玉大会)に参加してきました。社会変化への対応力の必要性を痛感するとともに、私たち事務職員に求められる役割について、改めて考えさせられる1日となりました。今回は、研究大会の内容の一部を要約してお伝えします。

- 【大会テーマ】「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」  
—校務運営参画の道を切り拓く事務職員の学びと実践—
- 【開催期日】 令和6年8月9日(金)
- 【会場】 埼玉会館大ホール(さいたま市浦和区高砂3-1-4)



### <大会概要>

- 10:00 開会式・大会オリエンテーション
- 10:45 文部科学省説明
- 13:00 全体研究会Ⅰ 本部研究発表
- 15:00 全体研究会Ⅱ シンポジウム
- 16:30 閉会式、引継式



### 文部科学省説明 文部科学省 初等中等教育局 学習基盤審議官 森 孝之 氏

「文部科学行政をめぐる最近の情勢について」というテーマで最新の文部科学省行政の動向について説明がありました。

はじめに、将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てることと、教育活動全体を通じた子どもたちのウェルビーイング(生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念)の向上をコンセプトとした最新の教育振興基本計画についての話がありました。

その後、教師を取り巻く環境の整備や、学習指導要領、令和の日本型学校教育、GIGA スクール構想の推進、教師の資質能力向上等についての話がありました。その中で、特に、これからの学校事務職員には、共同学校事務室の設置が促進されていること等への期待も踏まえ、“チームとしての学校の総合力、教育力を最大化できる体制を整備することが重要であるが、**学校事務職員はこの中で非常に重要な固有の役割を担っている。学校事務職員が校内の業務改善を提案し、実行していくことで、教師の負担軽減につながると考えられ、また、学校事務職員は事務を「つかさどる」存在として、学校経営に積極的に参画し副校長・教頭とともに校長を補佐する役割を果たすことが期待**されている。”ことが示され、事務職員としての役割を自覚し、業務改善を推進していくことが強く求められていることを感じました。



教育振興基本計画 働き方改革事例集 令和の日本型学校教育を推進する地方教育行政の充実に向けて



## 全体研究会Ⅰ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

### -校務運営参画の道を切り拓く事務職員の学びと実践-

助言者 愛知教育大学教育学部 教育科学系教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏

#### ～第Ⅰ節 事務をつかさどる事務職員の現状と課題～

法改正により事務職員の職務が明確となり、事務をつかさどることによる主体的・積極的な校務運営参画が求められるものの、今の事務職員が確実に事務をつかさどる職として校務運営に参画することができているとは言えない状況であるという論点から第Ⅰ節はスタートしました。

その要因の一つに、事務職員が固定概念から自身の職務の在り方を決めつけ、その領域を狭めてしまい、意図的もしくは無意識のうちに行動を制限していることが示されました。(例えば日々の業務における「事務職員の仕事はここまで」「事務職員には関係ない」「自分が関わる必要はない」という発想)このように職務を限定してしまっている状況を打破し、事務をつかさどり、校務運営に参画するには、法令の改正や中教審答申、文部科学省通知等で述べられている事務職員像を理解し、その上で、環境や条件を整えながら行動に移すことが必要であると考えられています。

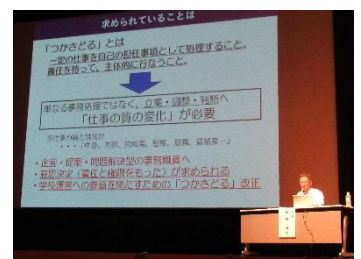
学校事務職員が自身の**取組は他者の困りごとを解消できるものか、子どもの学びにどう結び付きどのような影響をもたらすのか等を勘案して能動的に行動することが、周囲の理解や合意を得ながら学校のマネジメント機能強化を進める**ことにつながるということが話されました。

#### ～第Ⅱ節 校務運営に参画する事務職員の学びと実践～

また、第Ⅱ節では全国の支部から寄せられた数々の「学校事務実践事例」から4つの事例を取り上げ、事務をつかさどり、校務運営参画の道を切り拓く事務職員の具体像が示されました。

本節では事務職員の実践を言語化することで、自分や他者の実践から学び、学んだことを活かして実践に取り組み、またその実践を学びとして次の実践をつなげるといった、**学びと実践を往還**させることが校務運営参画への第一歩であるということが示されました。

風岡氏からは、事務職員は自己の考えを持ちながら、組織の潤滑油的な存在となることや内部的環境(自分ごととしてとらえること)、外部的環境(共同学校事務室や標準職務表等)による個人の意欲の向上や実践の後押しにより、誰もが働きやすい職場環境を整備することが、結果的に質の高い学校教育に繋がるという助言がありました。



## 全体研究会Ⅱ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

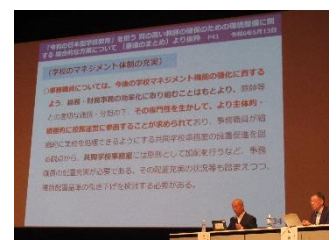
シンポジスト 埼玉県戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤 氏

愛知教育大学教育学部 教育科学系教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏

「これからの学校の在り方」「つかさどる職として子どもの豊かな育ちを支援する事務職員」を論点としたシンポジウムが行われました。

1つ目の論点について、戸ヶ崎氏より、戸田市の教育行政例を紹介しながら、読み書きの出来不出来や不登校支援など「一律一斉の授業の難しさ」、「児童生徒の出ていく社会を知らないのは不誠実」といったワードをもとに、個別最適化された教育支援や、学校は日本の将来を担う子供の成長を支援するために未来をも見据えた教育活動を展開することが求められているといったことが話されました。

次の論点では、業務改善は新しい学校教育の実現には不可欠であり、学校組織力の強化が教育力の強化に繋がるとし、事務職員は学校マネジメント機能の発揮に資する存在であるから、自身のリーダーシップのもと、リソースマネージャーとしての役割が期待されているといったことが話されました。



## 閉会、引継式

閉会后、次回開催地である滋賀県へ大会引継式が行われました。

滋賀大会の内容(予定)については下記のとおりです。開催要項等については詳細が決定し次第、北九州市立学校事務研究会(以下、市事務研)を通じて会員の皆さまへお知らせいたします。

【大会テーマ】「学びの環境を創造する学校事務」

—三方よしで 学校まるごと ウェルビーイング—

【開催期日】令和7年7月31日(木)、8月1日(金)

【会場】滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール(大津市打出浜15-1)



## 全国大会に参加して・・・

今回、全国大会に参加させてもらって、多くの貴重な体験をさせていただきました。

全国に、基本同じ1人職で学校のために同様の仕事を行っている人がこんなにもいて、日々の業務の傍らで今回の研究会の中で紹介された研究や実践をされている事務職員がたくさんいることも身をもって実感することができました。

まだまだ勉強不足で研究内容を自校で取り入れることはもちろんのこと、理解することすらままならないものもありましたが、また新たな「目指すべき事務職員像」形成の一助となりました。

### ～今回の埼玉大会参加までの流れ(一例)～

5月上旬 市事務研より校支援回覧板を通じて研究会の一次案内

5月下旬 市事務研より校支援回覧板を通じて研究会申込の案内 ※旅費等補助希望調査

6月上旬 旅行会社へ旅行企画書の作成依頼

7月中旬 大会参加申込

8月上旬 旅行会社へ旅費・宿泊費の支払い、交通チケットの受け渡し

8月 8日 前泊

8月 9日 大会当日



## さいごに

北九州市立学校事務研究会では、会員の費用負担軽減、学校事務の研究と会員の資質の向上を目的として各種研修や研究会に参加するための参加費や旅費を一部補助しています。

補助の対象となる研修や研究会については、逐一、事務局よりお知らせしておりますので、ご自身のスキルアップや成長のチャンスととらえ、ぜひご活用ください！



さいたま観光大使。浦和うなこちゃん  
やなせたかしさんが生みの親で、うなぎがモチーフ。

より良い研究会活動を推進するため、感想や要望などを教えてください！  
右のQRコードより回答できます。ご意見お待ちしております！

